

岩津ねぎだより

令和5年5月24日
岩津ねぎ産地協議会生産支援チーム

- ① チェーンポット苗は、倒伏前に剪葉作業を行いましょう。地床苗は、密生している場合は間引きを行いましょう。いずれも、播種後1ヶ月が過ぎて葉の色が薄い場合は追肥を行いましょう。
- ② 梅雨時期になると定期的な降雨で本田の準備が遅れます。ほ場が乾いている時に本田の準備をしましょう。

1 播種～出芽揃期のほ場巡回を実施しました

5月15日に育苗期のほ場巡回を行いました。発芽状況は、チェーンポット、地床、セル育苗いずれも概ね良好です。チェーンポット育苗の一部ほ場では、灌水ムラによる発芽不良、発芽までの被覆資材（ミラシート等）の除去の遅れによる徒長、苗立枯病が見られました。



巡回の状況

また、苗の保護のための被覆資材（寒冷紗等）で長期間被覆していると苗が徒長します。根が伸び、苗が安定してきたら被覆資材は外し、多雨や強風時のみ被覆できるようにしておきましょう。

育苗後半も苗床の排水対策と灌水など適正な水管理を徹底しましょう。

2 今後の育苗管理

(1) チェーンポット苗

① 剪葉の実施

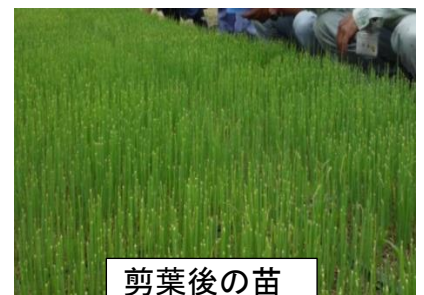
〈目的〉 苗を太くする、徒長防止、作業性の向上。

〈時期〉 苗の丈が20cm以上となり、倒伏が始まった頃。

〈程度〉 短くしすぎると生育が遅くなるので、12cm以下にしない。定植時は15cm以上を確保。

〈回数〉 生育状況を見て数回実施する。

※共用の葉刈機は、使用前後に水洗いをして清潔に保ちましょう。



剪葉後の苗

② 追肥の施用

播種後1ヶ月が過ぎ、葉色が薄い場合は、燐硝安加里 S604 を1トレイ当たり20g 散布します。

また、定植2週間前に発根促進のため、液肥を500倍に薄めて施用します。



乾燥による葉先の枯れ

③ 灌水の実施

苗と培土の状況をよく観察し、乾燥している場合は均一に灌水をします。

(2) 地床育苗

- ① 播種床で密生している所は、草丈が25cmになるまでに、数回に分けて間引き作業を実施します。最終目標本数は、播き溝1m当り80~100本になるように作業します。
- ② 播種後1ヶ月が過ぎ、葉の色が薄くなれば、燐硝安加里 S604 を1a当り2kg 散布します。

3 本田の準備

梅雨時期になると定期的な降雨で本田の準備が遅れます。土を練らないように、ほ場が乾いている時に本田の準備をしましょう。

① 排水対策の徹底

ねぎは過湿に非常に弱い作物です。本田の周りに額縁明渠等の排水溝を必ず設置し、水が溜まらないように排水対策を徹底します。

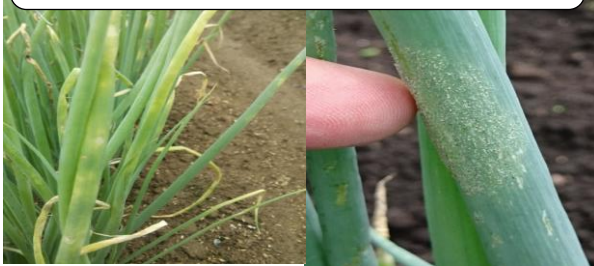
② 土づくり肥料の施用・耕耘

定植1ヶ月前までに酸度矯正のため、セルカまたは苦土石灰を100kg/10a、BMようりんを40kg/10a 施用し、耕耘して土を細かく砕いておきます。

4 病害虫防除

気温上昇や多湿条件で病害虫が発生しやすくなります。また、ねぎの病害虫は、たまねぎやニンニクなどと共通するので、育苗ほ場の近くに植えている場合は特に注意しましょう。

べと病: 平均気温 15~20℃で降雨が続くと発病が多い。



さび病: 春と秋に降雨が多いと多発。



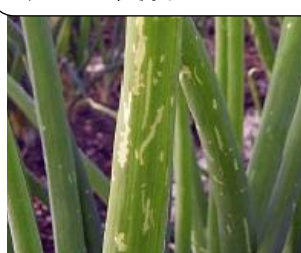
疫病: 気温 26~30℃で降雨が多いと多発。



アザミウマ類: 白く、かすり状の吸汁痕。



ネギハモグリバエ(従来系統): 白く線状に幼虫が食害



防除は防除暦を参照してください

<問合せ先>

和田山営農生活センター: 672-4800

山東営農生活センター: 670-7744

朝来営農生活センター: 670-4341

朝来農業改良普及センター: 672-6886